

令和2年度 小平市立 鈴木小学校 学校評価報告書

学校教育目標 人権尊重を基盤に生きる力を育み、健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。目標とする児童像を「よく考え やさしく 元気な 鈴木の子」とする。
 ○よく考える子…基礎・基本の習得とそれを活用する力を身に付け、自分の考えをもち、判断し、行動できる子ども ○やさしい子…自他の生命を尊重し、共に生きる豊かな心をもつ子ども ○元気な子…心身ともに健康で、粘り強くやりぬく子ども

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 ○人権尊重の精神を基盤とし、集団や社会との関わりを通して、すべての人が成長できる学校—子ども同士、子どもと教師、教師同士、学校・保護者・地域の好ましい人間関係の構築—
【目指す児童・生徒像】 ○子ども同士が認め合い、共に喜び、何にでも挑戦する意欲がある児童
【目指す教師像】 ○自己の使命と責任を自覚して学校を開き、教師同士が学び合い、協力し合って職務に励み、子どもと共に成長する教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
 ○小規模校ならではの児童へのきめ細かい指導や特別支援教育の視点を生かした教育環境の整備により、学力・体力ともに少しずつ向上した。また、少ない教員数で保護者へ協力をお願いしながら教育活動を展開できた。今年度も業務改善を行って働き方を見直し、教職員の心身の健康も保持しながら、主幹教諭を中心として組織的に教職員の資質を向上を図る。その上で、児童の自己肯定感を高め、意欲的に行動できる児童の育成を目指す。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ●計画的に鈴木タイムとベーシックタイムを実施し、確実な知識の定着を行う。 ●鈴木小学習ルールを確実に実行し、定着させる。 ●10分×学年の家庭学習を保護者にも働きかけ、定着させる。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業後は、予定通り実施。鈴木タイムの取組については、80%の保護者が、87%の児童が肯定的な回答をした。学力の定着へとつなげた。 ・学習ルールを守っているが、臨時休業後児童の学習意欲を向上させる必要がある。 ・家庭学習の定着については、80%の保護者、70%の児童が肯定的な回答をした。今後も担任から働きかける。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策のため、無言での意見交換やノートの見せ合い等、工夫をしていることがよい。 ・コロナの影響でできないことがあった分、工夫していることがプラスにはたっている。 ・コロナ対策の工夫が、教師の指導力向上につながると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学習の大切さを保護者にも周知したところ、鈴木タイムの取組に保護者も87%が肯定的な回答をした。学期末には単元終了時テストの正答率が80%に達した。 ・学習ルールへの意識も86%と高い。さらに上を目指す。 ・家庭学習に関しては、年度末における児童の肯定的な回答は72%であった。言われたことだけを行うのではなく、自分の学習を自分でつくっていく意識を育てることが次年度の課題である。 ・コロナ対策を講じながら、自分の考えを伝える活動に力を入れた。その結果、79%の児童が「自分の考えを伝えている」と回答した。次年度は、根拠をもって伝えることが課題である。 ・読書の楽しさに加え、語学力を高めることも伝えた結果、80%の児童が肯定的な回答をした。豊かな心を育むことに加え、学びにもつながっていることを継続的に伝えることが課題である。
	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えを発表し、学び合いの場面を日常的に取り入れた授業を行う。 ●読書活動の充実して語学力を高め、正しい言葉遣いで話し合う力を高める。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策で、メッセージボードでの意見交換やノートの見せ合い、ICT機器の活用等で自分の考えを伝える活動を取り入れている。 ・読書はよくしているが、語学力につながっている実感が低い。読書については、77%の児童が肯定的な回答であった。引き続き、担任から読書の意味づけをしていく。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した学習の準備は大変だが、コロナの時代には必要である。 ・ICTを活用した学習の準備は大変だが、コロナの時代には必要である。応援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策を講じながら、友達や先生も聞いて自分の考えを深めることを大切にできた。その結果、98%の保護者、90%の児童が肯定的に回答した。今後は、ICTも活用した多様な表現力の育成が課題である。 ・リモートでの研究会に参加した。新しく配付されるパソコンを活用した、新たな研究会の実施が次年度の課題である。
	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な考えを発表できる場を生かした、学び合いや深い授業を実践する。 ●外部の研究会や公開授業に積極的に参加し、校内に還元する。 	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策で、メッセージボードでの意見交換やノートの見せ合い、ICT機器の活用等で学び合いを取り入れている。 ・コロナの影響のため、研究会や公開授業には参加できていない。リモートでの参加のみである。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自分で考え、自分たちで話し合い活動している。「児童発案の活動」が児童を育てている。 ・コロナ対策として、行事を工夫することで、児童の自発性が育っている。 ・あいさつのできる児童が多い。上級生を見習っていると思う。 ・たてわり班活動や、上級生が下級生の面倒をよく見ていることが鈴木小の伝統になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつについては、引き続き85%の児童が肯定的な回答をしている。先にあいさつすることに関しては、個人差がある。来年度の課題である。 ・代表委員会の「いいねさんカード」に加え、各学級の朝の会での「いいねさん」の発表により、85%の児童が肯定的な評価をしている。大きな成果である。次年度は、異学年交流でも実施していくことが課題である。 ・年度末において、規範意識については、85%の児童が肯定的な回答をした。次年度は、言われたことを行うのではなく、自分たちで規範意識を高めていくことが課題である。 ・いじめ防止の授業やアンケートは、予定通り実施できた。週1回はいじめ防止の情報交換を継続し、気を配ることなく、いじめ発見しゼロ、未解決ゼロを目指す。児童が誰にでも相談できる体制も継続する。困っている児童に寄り添い、全員が安心して笑顔になれることをめざす。
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ●自分から先にあいさつすることや場に応じたあいさつをすることの学習を行う。 ●「いいねさんカード」の取組を推進し、人権感覚を高める学習を実践する。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつについては、84%の児童が肯定的な回答をしているが、自分から先にあいさつすることは課題である。朝のあいさつ運動で意識を高める。 ・代表委員会発案の「いいねさんカード」の取組が進んでいる。82%の児童が友達の良いところを見つけていると回答した。さらに高まるよう取組を継続する。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自分で考え、自分たちで話し合い活動している。「児童発案の活動」が児童を育てている。 ・コロナ対策として、行事を工夫することで、児童の自発性が育っている。 ・あいさつのできる児童が多い。上級生を見習っていると思う。 ・たてわり班活動や、上級生が下級生の面倒をよく見ていることが鈴木小の伝統になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつについては、引き続き85%の児童が肯定的な回答をしている。先にあいさつすることに関しては、個人差がある。来年度の課題である。 ・代表委員会の「いいねさんカード」に加え、各学級の朝の会での「いいねさん」の発表により、85%の児童が肯定的な評価をしている。大きな成果である。次年度は、異学年交流でも実施していくことが課題である。 ・年度末において、規範意識については、85%の児童が肯定的な回答をした。次年度は、言われたことを行うのではなく、自分たちで規範意識を高めていくことが課題である。 ・いじめ防止の授業やアンケートは、予定通り実施できた。週1回はいじめ防止の情報交換を継続し、気を配ることなく、いじめ発見しゼロ、未解決ゼロを目指す。児童が誰にでも相談できる体制も継続する。困っている児童に寄り添い、全員が安心して笑顔になれることをめざす。
	<ul style="list-style-type: none"> ●学期1回の規則の尊重の道徳の授業や生活指導等による規範意識を高める学習を実施する。 ●いじめに関する授業を年間3回全学級で実施する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識については、90%の児童が肯定的な回答をした。意識は高いので、行動に移せるよう指導する。 ・予定通り実施できている。いじめ発見ゼロ、未解決ゼロを引き続き目指す。友達関係で困っている児童はいるので、週1回の生活指導夕会と校内委員会を軸に支え続ける。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自分で考え、自分たちで話し合い活動している。「児童発案の活動」が児童を育てている。 ・コロナ対策として、行事を工夫することで、児童の自発性が育っている。 ・あいさつのできる児童が多い。上級生を見習っていると思う。 ・たてわり班活動や、上級生が下級生の面倒をよく見ていることが鈴木小の伝統になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末において、規範意識については、85%の児童が肯定的な回答をした。次年度は、言われたことを行うのではなく、自分たちで規範意識を高めていくことが課題である。 ・いじめ防止の授業やアンケートは、予定通り実施できた。週1回はいじめ防止の情報交換を継続し、気を配ることなく、いじめ発見しゼロ、未解決ゼロを目指す。児童が誰にでも相談できる体制も継続する。困っている児童に寄り添い、全員が安心して笑顔になれることをめざす。
	<ul style="list-style-type: none"> ●たてわり班活動や係活動等を通して主体的に考えて実践する力を育成する。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業後、13～14人の少人数で実施できた。コロナ対策をしながら継続する。交流活動については、95%の児童が肯定的な回答をしており、取組への意識が高い。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自分で考え、自分たちで話し合い活動している。「児童発案の活動」が児童を育てている。 ・コロナ対策として、行事を工夫することで、児童の自発性が育っている。 ・あいさつのできる児童が多い。上級生を見習っていると思う。 ・たてわり班活動や、上級生が下級生の面倒をよく見ていることが鈴木小の伝統になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末において、規範意識については、85%の児童が肯定的な回答をした。次年度は、言われたことを行うのではなく、自分たちで規範意識を高めていくことが課題である。 ・いじめ防止の授業やアンケートは、予定通り実施できた。週1回はいじめ防止の情報交換を継続し、気を配ることなく、いじめ発見しゼロ、未解決ゼロを目指す。児童が誰にでも相談できる体制も継続する。困っている児童に寄り添い、全員が安心して笑顔になれることをめざす。
体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ●休み時間に外遊びを奨励し、日常的に体を動かす。 ●なわとび旬間、マラソン旬間、大なわダーの継続的に取り組む。 ●体育科の授業の充実と体育集会の実施により、多様な運動を通して運動するよさを実感させる。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、予定通り実施できていない。可能なことから実施していく。 ・運動委員会によるワークショップは、計画できている。コロナの状況を見ながら実施する予定である。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自分で考え、自分たちで話し合い活動している。「児童発案の活動」が児童を育てている。 ・コロナ対策として、行事を工夫することで、児童の自発性が育っている。 ・あいさつのできる児童が多い。上級生を見習っていると思う。 ・たてわり班活動や、上級生が下級生の面倒をよく見ていることが鈴木小の伝統になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策をしながら、休み時間に体を動かすよう促した。児童の意識も90%と高いが、個人差が大きい。次年度は、コロナの状況を見ながら、クラスや学年での集団遊びも増やしていくことが課題である。 ・コロナ対策をしながら、なわとび旬間、マラソン旬間は実施できた。コロナ対策も、児童が考えられたことが成果である。継続する。
	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史や意義を学習し、運動に親しむ態度を育成する。 ●パラリンピック競技等に触れ、スポーツのよさを味わう授業を全学年が実施する。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しむことについては、88%の保護者、90%の児童が肯定的な回答をした。 ・オリンピック・パラリンピックについては、65%の保護者、68%の児童が肯定的な回答をした。授業中での指導継続と発信方法を工夫していく。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自分で考え、自分たちで話し合い活動している。「児童発案の活動」が児童を育てている。 ・コロナ対策として、行事を工夫することで、児童の自発性が育っている。 ・あいさつのできる児童が多い。上級生を見習っていると思う。 ・たてわり班活動や、上級生が下級生の面倒をよく見ていることが鈴木小の伝統になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末において、運動に親しむことについては、90%の保護者及び児童が肯定的な回答をした。次年度は、個人差を解消し、どう達成していくか、児童が主体的に考えることが課題である。 ・年度末において、オリンピック・パラリンピックについては、指導の結果、72%の保護者、81%の児童が肯定的な回答をした。次年度は、実際の競技への関心を高めることが課題である。
郷土愛の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●各学年・専科等の学習の様子を毎月ホームページで紹介する。 ●地域人材や関係機関と連携した学習を全学年において実施する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開ができないため、ホームページを毎日更新し、学校の様子を伝えている。90%の保護者、40%の児童が肯定的な回答をした。児童にもホームページの魅力を紹介し、児童の閲覧割合も増やすことが課題である。 ・コロナの影響のため、地域人材は活用できていない。状況を見て実施する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自分で考え、自分たちで話し合い活動している。「児童発案の活動」が児童を育てている。 ・コロナ対策として、行事を工夫することで、児童の自発性が育っている。 ・あいさつのできる児童が多い。上級生を見習っていると思う。 ・たてわり班活動や、上級生が下級生の面倒をよく見ていることが鈴木小の伝統になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業中も含め、ホームページを毎日更新できたことは成果である。年度末において、90%の保護者が肯定的な回答をした。児童は45%であった。児童にもホームページの魅力を紹介し、自分たちの活躍を見ることで、自尊感情をさらに高めることが課題である。 ・コロナの様子を見ながら、地域と連携することは次年度の課題。コミュニティ・スクールをめざしながら、連携を深めていく。
(業務改善)	<ul style="list-style-type: none"> ●会議の効率化、行事の精選をすすめる。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ることから始めている。学年会と週案簿の充実で、効率化を図る。コロナの影響のため、行事は実施できていない。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自分で考え、自分たちで話し合い活動している。「児童発案の活動」が児童を育てている。 ・コロナ対策として、行事を工夫することで、児童の自発性が育っている。 ・あいさつのできる児童が多い。上級生を見習っていると思う。 ・たてわり班活動や、上級生が下級生の面倒をよく見ていることが鈴木小の伝統になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末において、規範意識については、85%の児童が肯定的な回答をした。次年度は、言われたことを行うのではなく、自分たちで規範意識を高めていくことが課題である。 ・いじめ防止の授業やアンケートは、予定通り実施できた。週1回はいじめ防止の情報交換を継続し、気を配ることなく、いじめ発見しゼロ、未解決ゼロを目指す。児童が誰にでも相談できる体制も継続する。困っている児童に寄り添い、全員が安心して笑顔になれることをめざす。